

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	社会科教育法				
担当者氏名	井上 敏孝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門基礎-2 豊かな人間性の醸成</li> <li>○ 専門基礎-3 コミュニケーション能力の向上</li> <li>○ 専門基礎-4 発達の深い理解</li> <li>◎ 専門基礎-5 指導・保育の専門性</li> </ul>				

《授業の概要》

本講義では、学生が教員養成の段階で「知識習得型ジグソー法」や「KJ法」をはじめとしたアクティブラーニングを経験し、習得した知識・技能を活用して、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を養うことを目的とする。さらには学生自らが「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた小学校社会科授業を構想するとともに授業教材を開発し、授業実践することができる力を獲得することを目指す。

《授業の到達目標》

多様な教育方法を学び、実際に授業及び教材を開発する中で、児童の実態や地域の特色に応じた学習教材を選定・開発するスキルと感性を磨いてもらいたい。本講座を通して獲得した技術は、小学校社会の授業実践並びに教材開発時に生かすことができる。

《成績評価の方法》

授業への参加度・貢献度（20%）、小レポート（20%）、指導案作成・模擬授業（60%）を加えて総合的に評価する。全員が学習指導案を作成・提出し、それに基づいた模擬授業を行うことを単位習得の必須条件とする。  
5回以上欠席した場合は、指導案の提出を受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンスと新学習指導要領	本授業の概要と授業の進め方、評価方法等についてガイダンスを行うとともに、新学習指導要領の改正点やポイントを概括する。
2	アクティブラーニングの手法を用いた授業実践①	アクティブラーニングの手法を取り入れた小学校社会科の授業方法について検討するとともに、指導技術について分析する。①
3	アクティブラーニングの手法を用いた授業実践②	アクティブラーニングの手法を取り入れた小学校社会科の授業方法について検討するとともに、指導技術について分析する。②
4	アクティブラーニングの手法を用いた授業実践③	アクティブラーニングの手法を取り入れた小学校社会科の授業方法について検討するとともに、指導技術について分析する。③
5	社会科授業構想力の育成 ワークシート編	社会科授業教材を開発する力を育成する。効果的なワークシートづくりを実践し、それを用いた授業評価のポイントや留意点について分析を行う。
6	社会科授業構想力の育成 立体物編	社会科授業教材を開発する力を育成する。効果的な教材・教具づくりを実践し、同教材・教具を用いた授業評価のポイントや留意点について分析を行う。
7	空間認識能力を育てる社会科教材開発	小学校社会科地理的分野の見方・考え方を理解し、地理学の概念や方法論を用いた教材開発を行う。
8	社会科授業構想力の育成 カリキュラム編	学習指導要領で示された「カリキュラム・マネジメント」について考察するとともに、小学校社会科のカリキュラム開発を試みる。
9	社会科授業構想力の育成 授業・板書計画編	授業を構想するにあたり、設定した児童観・教材観・指導観に基づいて、授業計画を立案し、板書計画を立てる機会を持つ。
10	社会科授業構想力の育成 指導案編①	学習指導要領で示された、各学年の目標や内容の取扱い、指導上の留意点等を踏まえて、学習指導案を作成する。①
11	社会科授業構想力の育成 指導案編②	学習指導要領で示された、各学年の目標や内容の取扱い、指導上の留意点等を踏まえて、学習指導案を作成する。②
12	社会科授業構想力の育成 実践編①	各自が作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。①
13	社会科授業構想力の育成 実践編②	各自が作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。②
14	社会科授業構想力の育成 実践編③	各自が作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。③
15	まとめ	本授業で学んだ内容を総括する。

《テキスト》

『社会科教育のフロンティア—生きぬく知恵を育む—』原田智仁編著保育出版社

《参考図書》

小学校学習指導要領社会編  
文部科学省検定済み教科書 小学校社会 全学年上下  
その他、適宜レジュメ・資料を配布する。  
参考文献等はその都度紹介する。

《授業時間外学習》

日頃から学習指導要領や参考図書で示した文献に目を通しておくこと。

《備考（教員経験の有無）》

この教科は中学校の教員経験に基づき構成しています。